

JENESYS^{2.0}

JENESYS 2.0 韓国大学生訪日研修団による外務省訪問

平成25年11月

JENESYS 2.0の一環として、11月6日から11月15日まで訪日した韓国大学生訪日研修団（韓国外交部派遣）約30名が、11月14日午後、外務省の森本日韓交流室長を訪問しました。

冒頭、森本室長から歓迎の言葉を述べ、今回の訪日研修を契機に日本について更に関心を持ち、両国関係の架け橋となることを期待する旨、挨拶しました。

続いて、訪日団を代表して忠南大学の金池園（キム・ジウワン）さん、韓東大学の李東赫（イ・ドンヒョク）さん、圓光大学の金英駿（キム・ヨンジュン）さんから研修の報告がありました。金池園さんからは、知識として知っていた日本の文化が、ホームステイ体験を通じて直接触れることで、実際は異なっていたことを学ぶことができた、また日本の大学生と交流できたことが非常に印象深く、今回のプログラムで韓国からのみ見ていた日本ではなく、より幅広く深い日本を理解することができ、韓国の文化についても客観的に見ることができたことが意義深かったと述べました。李東赫さんからは、今回の訪日を通じて、日本について深く知ることができ、人との交流を通じて韓国と日本が友人であることを感じることもできた、また日本と韓国の深いつながりや文化交流を通じ、日韓関係発展に寄与していくという今後の自分の進むべき方向を決心する契機になったとの報告がありました。金英駿さんからは、日本と韓国が「近くて遠い国」と言われるが、それは心と心の距離を意味するとし、今後、この距離を縮めるためには日韓の青少年間の交流が何より重要であるとし、そのためには青少年交流プログラムで日韓の学生が共に生活し、共に研修する必要があると述べました。

質疑応答の時間には、訪日学生達から、日中韓3カ国がEUのような関係になるためにはいかなる努力が必要か、慰安婦問題や竹島問題について外務省ではどのような対応をしているのか、日本での嫌韓感情に対して外務省はどのような対応をとっているのか、原発事故による訪日韓国人減少に対して外務省はどのような対応をとっているのか等について質問があり、森本室長他から回答しました。

(了)

(質疑応答)



(集合写真)

